

インドネシア国家防災庁（BNPB）の高官が東北の津波被災地等を視察しました (2022/9/26-10/1)

テーマ：災害対策、グリーンインフラ、グレーインフラ、まちづくり

会場：東北大学災害科学国際研究所、宮城県・岩手県の津波被災地、気象庁、中央大学、東京都、JICA 本部
SATREPS Indonesia: http://www.coast.dpri.kyoto-u.ac.jp/satreps_bricc/
https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0310_indonesia.html

当研究所は、国際協力機構（JICA）および科学技術振興機構（JST）の支援を受けてインドネシアで実施中の SATREPS プロジェクト「沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム」（BRICC）に参画しています。当該プロジェクトは、森信人教授（京都大学）が研究代表者を務め、鈴木高二朗博士（港湾空港技術研究所）、有川太郎教授（中央大学）、Anawat Suppasri 准教授（東北大学）が各サブグループのリーダーとして参画しています。今般、当該プロジェクトにおいて、インドネシア側の主要メンバーであるインドネシア国家防災庁（BNPB）の高官 4 名が、日本の災害対策における様々な視点やインドネシアへの適用可能性について理解するために、東北の被災地等の視察を実施しました。

まず始めに、BNPB 高官 4 名並びに JICA 専門家及び職員は、9 月 26 日の午前中、当研究所を訪問し、今村文彦教授（所長）と越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）による特別講義を受けました。その後、9 月 26 日から 29 日まで、有川太郎教授、当研究所の小野裕一教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、サッパシー アナワット准教授（津波工学研究分野）、佐々木大輔准教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、北村美和子特任研究員：助教（国際研究推進オフィス）とともに、仙台市、仙台国際空港、女川町、石巻市、南三陸町、気仙沼市、釜石市、宮古市田老地区、普代村など、宮城県・岩手県の津波被災地等を視察しました。視察の様子は、地元のニュースでも取り上げられました。また、9 月 30 日から 10 月 1 日には、気象庁、中央大学、東京都、JICA 本部を訪問し、災害モニタリングや緊急対応等について視察しました。なお、気象庁では長官との懇談も実施されました。

今回の視察を通じて、BNPB の高官はグリーンインフラ・グレーインフラとその組み合わせによる減災効果、緊急対応、まちづくり、語り部による災害伝承など、多岐にわたる分野について理解を深めました。得られた知見については、5 年間（2022～2026 年度）の SATREPS プロジェクトを通じて、インドネシアで社会実装されることが期待されます。

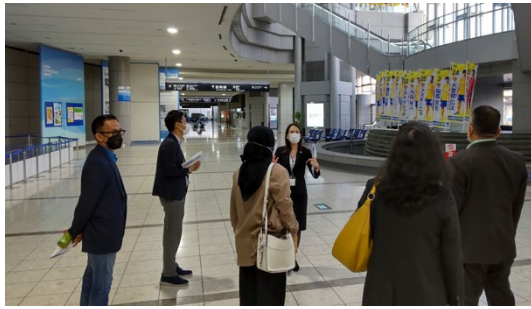
文責：サッパシー アナワット（津波工学研究分野）
佐々木大輔（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）
北村美和子（国際研究推進オフィス）



特別講義（災害科学国際研究所）



震災遺構 仙台市立荒浜小学校



仙台国際空港



石巻市震災遺構大川小学校



東日本大震災遺構（旧女川交番）



語り部（南三陸町）



気仙沼市東日本大震災遺構



釜石港湾口防波堤の視察



宮古市田老地区の防潮堤



普代水門



気象庁



中央大学